

教員名	小坂 圭太 (KOSAKA Keita)
所 属	文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現講座
学 位	音楽修士(1987、東京芸術大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	ktakos@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

ピアノの発展史における連続と断絶

◆主要業績

総数 (11) 件

- ・4月23日アンサンブル・フォルテ第一回演奏会、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」ソリスト 指揮 松尾葉子 東京オペラシティコンサートホール
- ・2月18日藤沢市芸術文化振興財団主催『エッセンシャル・モーツァルト』室内楽
- ・2月発売新譜工藤重典 (Fl) CD〈夢のあとに〉ピアノ伴奏 [レコード芸術誌特選盤]

◆研究内容

ライフワークである『ベートーヴェンと20世紀前半のピアノ作品演奏』を軸に演奏活動を展開。又、後述の『日本のピアノ曲1900～1975』ゼミ開講の為、様々な資料・史料を再読する中で本邦洋楽受容における問題設定の意識の変遷に関心が強まりつつある。

・演奏活動の一部

4月23日アンサンブル・フォルテ第一回演奏会、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」ソリスト 指揮松尾葉子 東京オペラシティコンサートホール

6月19日二期会週間'05、第6夜 ソプラノ松田昌恵メゾソプラノ栗林朋子

2月18日藤沢市芸術文化振興財団主催『エッセンシャル・モーツァルト』室内楽

2月発売新譜工藤重典 (Fl) CD〈夢のあとに〉ピアノ伴奏 [レコード芸術誌特選盤]

◆教育内容

音を聴く、というのはどういう事なのか？楽譜通り弾く、とは具体的にはどういう事を指すのか？時間を軸に展開される芸術に於いてどうして構造把握認識を伝達・共有する事が可能なのか？等の根源的疑問と課題を各自が継続的に考え会得していく事を目指し実技個人レッスンを行っている。

又一つの事柄を多角的な問題意識で理解・把握する事を目指し多彩な切り口によるテーマ演習を毎年開講、17年度は『日本のピアノ曲1900～1975』及び、作曲家別ピアノ作品徹底研究第2弾として『ブラームス』を行った。前者では総括として近藤教授をゲストに迎え、1970年前後の文化状況等精神的背景についてインタビューを行った。

ピアノ以外の器楽が本学に無い為に器楽合奏の機会に恵まれない事を補う位置づけで16年度に開始した、毎年一つの楽器のプロ奏者を招いてのデュオ講座は17年度はチェロの丸山泰雄氏を招聘した。

◆将来の研究計画・研究の展望

- ・ 前述の諸テーマの継続・展開
- ・ 今後ますますフラット化（客観化・相対化）してゆくであろう学問と、あくまでも西洋近代の或る時代の思考と美意識の反映を引きずるピアノという楽器によって身体感覚として擦り込まれた真実との、矛盾や齟齬を縫い合わせる試み

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・ 20 世紀の文学・美術・ファッションなどとのネットワーク等

◆受験生等へのメッセージ

音楽を演奏する事にも理解する事にも関心を抱く人、ピアノを弾く行為は決してそれ自体で完結する事ではなく、自分の中の必ずしも明瞭ではなくても絶対に譲れないある価値観の体現だと感じている人、明確に回答の出る領域と永遠に謎として残る領域を往き来する事によって人格は形成されると考える人…そういう人たちに少人数制による緊密な人間関係の中で自己の指針を形成するお手伝いが出来ればと思います。